

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000903		
法人名	(有) Human-Hope		
事業所名	グループホーム 自由の風		
所在地	小樽市奥沢2丁目10番18号 (電話) 0134-24-2275		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月7日

【情報提供票より】 (H19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	27,000円/月	
敷金	有 (35,000 円)	暖房費(11~3月)	7,000/月	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (35,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,250 円	

(4) 利用者の概要 (12 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	4名	要介護2	5名			
要介護3	5名	要介護4	4名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	87 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院・おきつ歯科・港南クリニック・野口整形外科他1件
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりの「自由」を尊重した環境作りと地域に根ざした心休まる福祉社会の法人理念のもと「グループホーム自由の風」は地域密着型サービスの意義を果たし事業運営がされています。認知症についての正しい知識や介護サービスの専門的な知識と技術を持つ職員を育成し、適切なサービスの提供という重要性を常に認識し利用者の権利8か条を標榜して方針の具現化がされています。利用者、家族、地域社会、職員が良好な関係を築き豊かな日常生活をその人らしく過ごせることを日々考え、町内会と連携した行事や家族参加の外出支援、作業療法などを取り入れ、認知症状の緩和に努めています。また、家族の意向により重度化や看取りの支援体制が図られています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については、10の改善課題がありました。権利の明示については家族に分かりやすく明示をし、継続的な研修の受講では、職員が段階的に研修へ参加する機会を確保するなど、一つひとつ真摯に課題に対し取り組まれており、全て改善に至っている状況でした。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、ホーム長は、評価の一連の過程を通じてサービスの質の確保や向上に役立てようとする前向きな姿勢が伺われます。評価の項目を全職員で話し合いながら検討しており、意見討議のもと自己評価に取り組んでいます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ケアサービスの実際やホームの実情などの報告をもとに質問や意見交換が行なわれ、メンバーから寄せられる地域密着型の交流行事の提案により、運営に反映する取り組みが実現されています。また、ビデオを活用した認知症の学習会が開催されています。今後は、市の担当者の参加を積極的に呼び掛けるとともに、行政としての助言が会議場面で得られサービス向上に結び付くよう取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内・外部に苦情相談機関を作り、本人、家族からの指摘、苦情について受け止め解決する体制が整備されています。家族の訪問時や行事協力を得る場面などで、気軽に意見や不安などを話してもらえるよう努め、ケアサービスや運営に反映するよう取り組んでいます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム長が近隣住民であることや運営者が地域へのホーム機能の還元について積極的であることなどから、開設2年目ではありますが、地域との連携や協力関係の良好な様子が伺えます。町内会加入はもちろん、町内会の多彩な行事参加が実現されており、地元ボランティアの受け入れや、商店などと連携を図りながら、利用者が自然な形でお付き合いができるよう、日常生活における触れ合いを大切にしています。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの導入により新たな理念を標榜しており、家庭的な環境と地域との交流の中でその人らしい生活の自己実現を図るためのホーム独自理念を職員全員で作くりあげ展開されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、全体で話し合う機会を持ち、具体的なケアについての意見統一や日々振り返りを行なう中で、職員全員が確認をし合っている。ネームプレートの裏に理念が書かれており、理念に立ち返り方向性を見極めケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者と職員は餅つきや夏祭りなどの町内会行事に参加をしている。買物先での交流やホーム前に「ご相談下さい」の看板を掲げ地域からいつでも相談に応じる体制を整え、孤立せず双方向の付き合いができるよう地元の人々とできる限りの交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ユニット全体会議にて全職員で取り組んでおり、評価のねらいについては運営者、ホーム長が周知を図り、評価項目について意見討議され実施をしている。評価一連の過程を通じ、ケアの振り返りや見直しに取り組まれ、サービスの質の確保に活かされている。		

小樽市 グループホーム 自由の風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年6月より隔月で定期開催されサービス提供の実際やホームの実情などを報告し、町内会からの提案による取り組みが実現されるなど、運営に活かされている。構成員である町内会、家族の参加は得ているが、市や地域包括職員の参加が得られていない。	○	幅広い立場の人が運営推進会議に参加してもらう必要性は認識されているので、市の担当者へ積極的な参加呼び掛けを行なうとともに、地域包括職員の参加と、行政からの助言が得られ、運営やサービス向上に活かされるよう取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課及び生活保護課とは課題解決の協議や問題の共有化を図っており、できるだけ話す機会を確保している。また、社会資源としての役割や市民ニーズに対しては、前向きな姿勢でサービス向上に取り組むことを目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホーム便り」を発行し、利用者の暮らしぶりについてエピソードを交えながら知らせている。受診状況などその都度報告を行ない、金銭管理についても定期的に報告がされている。行事や生活の様子もこまめにスナップ写真に収め、積極的に利用者の様子を発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事などに家族を招待し参加、交流をする中で運営などにおいて気軽に意見を伝えられる機会を作り、サービス担当者会議では家族を含めたメンバー構成で組織し参加する場面を多く設定している。ホーム内、外部の苦情相談窓口は明確に文書などで明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や、やむを得ない離職の場合は、職員全員で利用者をサポートをし、ダメージの緩和に配慮をしている。運営者は、昇給制度や資格給を導入し労働環境の整備を図り、職員の定着や馴染みの職員が継続的に支える体制に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員個々に応じて外部研修会や学習会への積極参加を促し受講できるよう体制を整えており、内部研修は毎月定例で開催され研鑽を深めている。日常の介護場面では認知症状緩和作業療法を取り入れ職員の力量も相乗したプログラミングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとはさまざまな相互交流が実施されており、ホームの環境的利点を活かしながら連携を図っている。市のグループホーム協議会の行事、勉強会の参加や、近隣のほかのグループホームと相互訪問を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問や見学、面談のほかに、希望や状況により一日体験を利用してから、本人の納得を得てサービスを開始するための個別の利用調整を行っている。利用者が一日でも早くホームに馴染めるよう、本人の生活歴や心情に配慮しながら信頼関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の家事をともに行なう中で、年長者の利用者から生活の技や知恵、生活文化を教してもらいながら過ごしている。利用者が職員に労いの言葉を掛ける場面もあり、暮らしの中でお互いを分かち合い支え合う関係が築かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にして、利用者中心の暮らしを支援している。職員は日々の気付きを共有しながらアセスメントし思いや意向を検討している。表出が困難な場合は、非言語的コミュニケーションも交えながら把握に努め検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式とMDSを導入しており、カンファレンスでは医師の助言や職員の日々の気付きを共有している。サービス担当者会議では家族の出席を得ており意向を反映させながら検討し、地域でその人らしく暮らし続けるため個別具体的な介護計画をチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期目標6ヵ月、短期3ヵ月の期間を明示しており、カンファレンスは月1回実施し、期間に応じた見直しのほか、リスクマネジメントを導入しながら、変化の兆しに予防的に対応していくためのプランの見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスでは、本人、家族の状況に応じた通院支援、生まれ故郷や入居前の自宅訪問などの個別外出支援を行なっている。また、馴染みの理・美容室の送迎や外泊など柔軟な支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望や状況に配慮して、入居以前からの掛り付け医にも受診できるよう支援している。協力医療機関からの往診やいつでも相談できる体制を確保している。ホーム看護師が健康管理記録をまとめ、医師や家族との情報伝達を行ない、連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の早い段階から、家族と重度化や急性期、看取りについて話す機会を持ち、最後をどのように迎えたいかの意向を聞いている。「重度化した場合の指針書」、「看取りに関する方針」を書式化し同意書を交わしている。医療機関や家族とはその都度話し合い、意思確認や合意を共有する体制を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけるような言葉掛けや対応がないよう十分配慮しており、本人の情報を取り扱う場合は、使用する目的や条件を明記した「個人情報使用同意書に関する同意書」のもと、法令を遵守してプライバシーの徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、職員本位のケアを行わず、本人が望む過ごし方ができるよう努めている。喫煙を希望する場合は職員が見守りのなか支援され、レクリエーションなどの参加も無理強いをせず、自由に過ごしてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ、飲み物以外の食材は週3回配達されており、利用者の希望や力を活かしながら、食事一連の作業を職員と一緒にこなしている。ホーム菜園で収穫された食材を利用したり、季節感を取り入れた行事食や外食なども取り入れ、変化を付け楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間帯や曜日に最低週2回の入浴支援をしている。状況に応じてシャワー浴や清拭を実施し、利用者一人ひとりに合った言葉掛けを職員全員で確認して入浴を促すなど、安心して入浴が楽しめるよう工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や菜園、楽しみごとを認知症が進む過程において、利用者が和みながら喜びや生きがいを感じてもらえるかを職員は日々模索しながら場面作りを行なっている。回想法を交えたレクリエーションなどで有する力を踏まえながら心身の活性に気を配り支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護車両を配備し車椅子での外出に配慮している。外気に触れる重要性を理解しており家族の同伴を得ながらさまざまな場所へ目的を持って外出している。買物や散歩のほか、温泉や果実狩り、神社参りなど五感刺激の機会を取り入れながら支援が行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は20時～翌朝5時まで防犯上の理由により一般家庭と同様に施錠をしている。利用者の外出傾向の把握やセンサーを玄関に設置して見守りの連携を図り、鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫をしている。		

小樽市 グループホーム 自由の風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼間、日勤帯想定で避難訓練を実施している。消防署による訓練のほか、自主訓練を重ねている。現在、災害に備えた飲料水は交換作業が行なわれ、保存食は検討されている。災害時における地域住民との連携体制は具体的な取り組みには至っていない。	○	地域住民との連携が図られるよう、運営推進会議などで具体的な協力を呼び掛けるとともに、夜間想定を含めた実践的な訓練や災害時における体制が整備されるよう取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量は1300CC、カロリーは1500～1600を確保できるよう支援しており、摂取量を記載して状態を把握している。管理栄養士による専門的な観点で栄養バランス、摂取の支援が行なわれている。現時点では全利用者が普通食での摂取状況である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンとリビングダイニングは明るく落ち着いた空間になっており、ソファコーナーはゆったりと利用者が集える場所となっている。ユニット間の階段が居間に設置され利用者同士が馴染み易い環境である。トイレから浴室へは移動し易い造りで利用者への配慮が見られる。手作りの装飾やスナップ写真は、温かみや季節感かもし出していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や家族の協力のもと、一人ひとりに応じた生活しやすい居室作りがされている。馴染みの家具や本人が大切にしている品々が持ち込まれており、生活用品が利便よく収納され、思い出の品なども思い思いに飾り付けされていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。